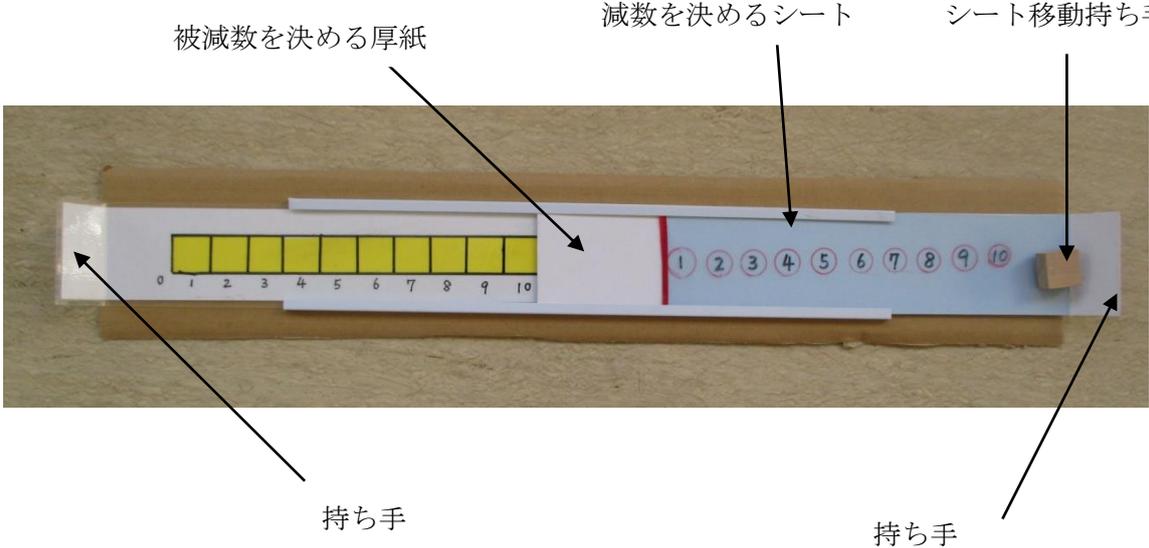
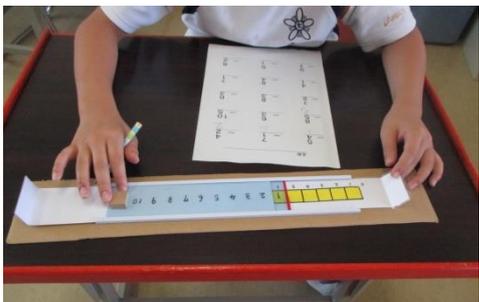
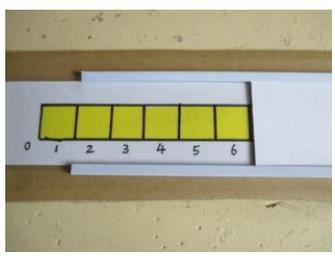


主に関係する 領域・教科	算数	氏名：寺田 春美
教材・教具名	ひき算 GO	
ねらい	引かれる数が10までのひき算の答えを求めることができる。	
<p><b>教材教具の説明</b></p> <p>ひき算を操作活動で答えを出そうとすると、まず引かれる数を出して、そこから引く数を取っていくのが一般的なやり方である。これはとてもわかりやすい操作活動ように思うが、ブロックなどを出したり入れたりしている内にひき算をやっているのか、たし算なのか分からなくなる感じになってくる。</p> <p>そこで、指で数えながらブロックを操作するのではなく、量感を大事にしながら図で表すことにした。</p> <p>&lt;教材の全景&gt;</p> 		
制作のポイント		使用材料・部品
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引く数は透明シートに数字を書き入れ、引かれる数との見分けをつけるため、赤丸をつける。(初めはプリントの減数にも赤丸をつける。)</li> <li>・どこが答えを表すかシートの端にビニールテープを貼り分かりやすくする。</li> <li>・答えが0になる場合も分かりやすいように、1の横に0を書き入れる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚紙</li> <li>・プラスチックレール 50 cmで 160円ほど</li> <li>・色つき透明シート</li> </ul>

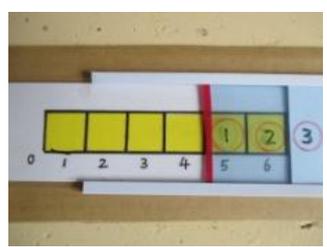
・被差数が10ばかりのプリントの時は、真ん中に挟んである厚紙を外して使う。



実践



①両方の持ち手を動かしてタイル図を被減数にする。



②透明シートをずらしながら減数になるように合わせる。

③赤い線に着目し、残りのタイルをプリントに記入する。

効果・改善点等

- ・被減数と減数の混乱なくスムーズに、操作で答えを導き出すことができるようになった。よってプリントを仕上げる時間がとても早くなった。
- ・繰り返し演習する中で、操作なしで答えを書くことができるものも増えてきている。
- ・今後は、繰り下がりのあるひき算においても、同様な仕組みで教材を作り理解が深まるようにしたい。